

9. 「ツチクラゲ」ってなに

ツチクラゲは「針葉樹林の火災跡地によく発生し、生木を枯らすキノコ」といってしまえばこれで終わりです。松本市浅間の山火事でも発生しました。

一般の菌が25℃で発芽するのに対して、この菌は**60℃でも発芽します**。山火事などで土が熱せられ、眠っていた菌が発芽すると考えられていますが、ツチクラゲは火災により周囲の環境が無菌状態になり、競争相手になる菌がなくなることや、高温で発芽するなどの特徴があります。岩手県の三陸大火では大きな被害になりました。また、海岸のクロマツ林の大面积が被害に遭いました。原因はキャンプファイヤーの焚き火と推定され、共同炊事場を設けてからは発生しなくなった例があります。**焚き火とて侮れない事態もあります**。

例えは異なりますが、ロジポールパインやジャックパインは「山火事を待つ林？」といわれ、火災時の高温にさらされると、種子がはじけるそうです。ツチクラゲと似ているところがあります。



(写真提供：社団法人長野県林業コンサルタント協会 松澤義明)

写真2 ツチクラゲ (松本市里山辺)